

今週の相場はどうなる？ 今週の相場はどうなる？

作成者：山根亜希子

○6月24日～

先週は再び円安が加速し、ドル／円は160円手前でマーケットが終わっています。

前回の介入は160.2円あたりで行われたので、160円を超えてくると介入への警戒感が強まります。

ただし、7月の会合で日銀は日本国債(長期債)の買い入れを減額することを決めており、減額の規模も相応の規模になると植田・日銀総裁がコメントしているためドル／円はそろそろピークをつけて、流れが変わってくる可能性もあるかもしれません。

また、米国株の堅調な動きがいつまで続くかも重要です。

先週、ナスダックやS&P500は史上最高値更新を記録しています。

NYダウや日経平均は春につけた高値には届いていませんが、昨年秋に底をつけてから上昇が続いている株価の動きにも注目したいです。

先週は、エヌビディアがマイクロソフトやアップルを抜いて時価総額世界1位になりました。

米国株の上昇を引っ張ってきたAI関連銘柄に達成感が出てきたら、しばらくは調整入りとなるかもしれません。

今週はフランスで選挙があり、政治リスクから株価などが崩れてくると堅調な動きをしているクロス円にも影響が出るかもしれません。

また、ロシアと北朝鮮の動きなどから地政学リスクも高まっています。

今週、米国では物価を見る上で重要なPCEデフレーターなどが発表されます。

米国のインフレはまだまだ高い状態で、FRBは利下げに慎重な姿勢です。

どんどん利下げの時期が後ろにずれてきてますが、金利が高い状態が長く続けば経済にも影響が出てきます。

米国の利下げは始まらず、日本が金融緩和の縮小を開始となれば株価にとってはマイナス材料となります。

そして、為替相場はドル／円以外でも豪ドル／円がリーマンショック前の高値に近づくなどクロス円の高値更新の動きにも注目したいです。

今年の夏に株、為替ともに数年サイクルの天井をつける可能性もあるということです。

もちろん、このまま円安と株高が止まらない場合は、どこまでいくのか見極める必要があります。

ドル／円は160円を超えていくという予想も多く、日米の金利差が大きく縮まる可能性は今のところ少なく、米国がリセッション(景気後退)でかなり金利を下げる動きにならない限り、金利差が開いた状態が続くからです。

● テクニカルで見た重要ポイントは？

今週の相場はどうなる？ 今週の相場はどうなる？

<ドル/円>

先週のドル/円は、週の終わりにかけて158円を超えたところから円安が進み、160円手前でマーケットが終わっています。

このまま週明けに前回高値の160.2円をトライする動きが出るかどうかです。

基本的には押し目買い戦略を継続するのが安全そうです。

下がってきたら買いのタイミングを狙いたいです。

下値は、今まで抵抗になっていた158円あたりを維持できれば上値トライの動きが続きそうです。

割り込んでも156円あたりにもサポートがあり、買い意欲は強そうです。

介入などで大きく流れが変わるまでは基本は買い、急騰局面のみ売りも検討したいです。

<気になるクロス円>

クロス円も高値更新しているペアが多く、ポンドも200円を超え、オセアニア通貨もリーマンショック前高値あたりまで上昇しています。

日足で陽線が続いている間は上昇継続と考えて、買い戦略を考えたいです。

株などが大きく下げ始めたら、流れが変わってくる可能性もあるので、チャートをよく見ながら取引していきたいです。

*クロス円とは円との通貨ペアの総称:〇〇/円というような通貨ペアのことです。

<今週のファンダメンタル？>

日本では6月東京都区部消費者物価指数、5月鉱工業生産などがあります。

米国では4月ケース・シラー米住宅価格指数、6月消費者信頼感指数、6月リッチモンド連銀製造業指数、5月新築住宅販売件数、1-3月期GDP(確定値)、5月耐久財受注、前週分新規失業保険申請件数、5月住宅販売保留指数、5月個人消費支出(PCEデフレーター)、6月シカゴ購買部協会景気指数、6月ミシガン大学消費者信頼感指数などが発表されます。

欧州ではユーロ圏で6月消費者信頼感指数、ドイツで6月IFO企業景況感指数などがあります。

ほかには、英国で1-3月期GDP、カナダで4月GDP、カナダとオーストラリアで消費者物価指数の発表などがあります